

# 中国広州で無人車の公道走行試験始まる

2018年2月6日 13:26 [有料会員限定]



中国南部の広州市が一部地区での自動運転車の走行試験を許可、待ちに待った政府認可の下での公道試験が中国で始まった。

景馳科技と小馬智行(Pony.ai)のスタートアップ2社はこのほど、初めて一般市民を乗せた試験走行を実施した。派手な宣伝活動にみえるが、米競合他社との間で広がるテスト走行距離の差を縮める取り組みでもあるようだ。

限定的な規模ながら、中国で合法的な公道走行試験が始まったことは、これまで全ての走行試験を米カリフォルニア州で行ってきた同国の自動運転車産業にとって重要なステップとなる。

## 人工知能ソフトの訓練に不可欠

中国の業界は、米グーグル傘下の自動運転開発会社ウェイモなど米企業との激しい競争にさらされている。ウェイモは2009年から実施している米4州での走行試験で、テスト走行距離が17年11月に400万マイル（約644万キロメートル）に達した。走行距離の蓄積は人工知能（AI）ソフトウェアの運転訓練で重要な指標となる。

人間の脳が運転免許を取得するのに必要な時間は数十時間ほどだが、コンピューターが安全に運転できるようになるには数億マイルの走行が必要かもしれない、と科学者は指摘する。

北京市政府は17年12月15日に北京郊外での路上走行試験の認可申請の受け付けを始めた。

中国で自動運転技術をリードするインターネット検索最大手の百度（バイドゥ）は以前、自動運転車の公道走行試験を北京本社近くの公道で無許可で行ったことがある。政府からの明確な許可のない法的にグレーな領域での実施だった。同社はカリフォルニア州でも試験走行を実施している。

小馬智行は創業者が中国人だがカリフォルニア州に本社を置いている。同社は1月30日、広州市南沙区で走行試験を開始したことを明らかにした。

景馳も同日、同様の試験プロジェクトの開始を発表した。広州市のバイオテック・アイランドという別の場所で、高度に自動運転化された車両を用いた公道走行試験の試乗プログラムを3カ月間実施する。

両社共、カリフォルニア州の公道走行試験の許可を取得している。

小馬智行は南沙での試験について「自動運転車の企業が中国の一般の人々にサービスを提供するのは初めてだ」としている。同社が公開した動画には、走行する自動運転車の運転手がハンドルを握らず、両手を膝の上に置いた様子がはっきりと映し出されている。



百度出身者の中国企業が自動運転車開発を進めている(2017年12月、浙江省でのイベントで表示された百度のロゴ)=ロイター

百度も16年に烏鎮で開かれた世界インターネット会議の期間中にこれよりはるかに小規模な試乗走行を行ったが、公道試験ではなかった。

景馳は自社の試験走行プログラムについて、「数十台の無人運転車が中国の公道を初めて運行する。予約は公募制で順次受け付けている」としている。

小馬智行と景馳を率いるのは百度出身のチームだ。百度は17年12月に景馳と、百度の幹部だった景馳の創業者を知的財産権侵害で訴える意向を明らかにした。

By Charles Clover, Yuan Yang and Sherry Fei Ju

(2018年2月6日付 英フィナンシャル・タイムズ紙 <https://www.ft.com/>)

(c) The Financial Times Limited 2018. All Rights Reserved. The Nikkei Inc. is solely responsible for providing this translated content and The Financial Times Limited does not accept any liability for the accuracy or quality of the translation.

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

**NIKKEI** No reproduction without permission.